

とびひ（伝染性膿痂疹）のお話し

夏が近づいて参りました。夏はブツブツの季節です。今回は夏の皮膚病の代表選手「とびひ」のお話し。

「正式には「伝染性膿痂疹」といいます。接触によってうつって、火事の飛び火のようにあっという間に広がることから「とびひ」と言われています。

皮膚表面には沢山の菌が存在しますが、角質層、皮脂膜のバリア（サランラップ程度の厚さ）があり、微生物の侵入を防いでいます。あせもや虫さされをひっかくと皮膚のバリアが剥がれ、そこに細菌が感染することにより炎症を起こし、かゆみを伴った水疱が出来ます。これが「とびひ」。水疱は簡単に破れて内容液が飛び散り、あっちこちに「とびひ」します。

とびひにならないようにするには？皮膚のバリア機能を維持するため入浴し皮膚を清潔に保ちましょう。あせもが出来たり、虫に刺されたら、外用薬（かゆみ止め）をつけて掻かないようにしましょう。爪が長いと皮膚を傷つけます、短く、丸く切って清潔にしておきましょう。とびひを起こす細菌は子供のお鼻の入り口に沢山います。お鼻に指を入れないよう、触ったら手をよく洗うよう指導しましょう。

それでもとびひを起こしたら？患部をよく洗い、抗生剤（細菌感染に有効）の外用薬を塗布します。シャワー可、湯船不可です。通常は3～5日で乾燥してきますが、治りが悪かったり、とびひの範囲が広がったりすれば内服の抗生剤も使用します。治りきるまで1週間程度は治療を続けましょう。

とびひは他のお子さんにうつす可能性があるため、医師の診断、治療をしっかりと受けましょう。病変部が覆ってあれば学校を休む必要はありません。治るまでプールは禁止して下さい。